

第45回仙台大会終了のごあいさつ

第45回大会委員長 氏家靖浩

今回の仙台大会の開催にあたり、直接ご参加下さった皆様には、心から感謝の言葉を申し上げますし、参加はかなわずとも、いろいろとご配慮下さった皆様にも、厚く御礼を申し上げます。

仙台大会へのお誘いの文章に、私はクイズを入れました。それは開催した宮城県仙台市の東北文化学園大学の周辺を走る鉄道車両に設置された、ある秘密についてでした。ご参加された皆さんは、答えがわかりましたでしょうか。実は、比較的寒い地域を走る鉄道車両は「自動ドア」と書かれていても、必ずしも自動で開くのではなく、駅に停車中のドアの開閉は、「開」か「閉」のボタンを押して、乗降する人が自ら働きかけなければ、ドアは開いてくれない、というのが、正解?でした。ちなみに、乗降が終了し、列車が動く前には車掌さんが確認し自動でドアは閉まりますので、ここに関しては完全な自動ドアということになります。

地球温暖化が叫ばれても、今だ冬は寒いものです。誰も乗降しないのに駅に停まるたび列車のドアが開きっぱなしでは、車内の暖気が損なわれますし、やはり温暖化を促進しかねないかもしれません。その点だけを指摘すれば、なかなか画期的な発明?だったかもしれません。しかし、このように自動ドアと書かれていながら、ドアが自動で開かずに、乗ろうと思っていたら乗る前に列車は動き出した、また逆に、降りようとしたら降りる前に列車は動き出した、といった話を、時々聞くことがあります。

また、長い停車だと知っていたので、自分がさっさと下車した後に、「閉」を押してドアを閉めてあげたら、少し遅れて荷物をいっぱい抱えた人が降りてこようとしていて、ドアを閉めた人に対して、「余計なことをするな」という目で見られた…なんていう話を聞いたこともあります。

そんな話を聞きつつ、私はあらためて「対話」の重要性に思いをはせるのです。

私は鉄道車両の自動ドアではあるが、自動ドアではないことを題材にして、少し大真面目に自分が担当している学習・認知心理学の講義で、オペラント条件付けの具体例として説明しようとするのですが、気がつくと、学生は白けた雰囲気になっていますし、私自身は、オペラント条件付けについてはもうどうでもよく、自動で開くようで実は開かないドアを、見知らぬ人にどう説明してあげたらよいのか、といった、「対話」の重要性について、口角泡飛ばして話している次第です。おしまいに、高倉健の映画「鉄道員(ぽっぽや)」を見て、愚直に生きる大切さを説いているところに、学生はお先します…とあって、その車両に揺られ家路についているのです。

今回の大会は、台風にもインフルエンザにも邪魔されなかったのに、参加者数は増えませんでした。しかし、自動ドアの話ではありませんが、そのぶんだけ「対話」が少しは深く、丁寧にできたのではないかと考えているのは、開催地の責任を負った者の負け惜しみです。

さて、ここに謝辞を書いても書かれた方々は読めないのですが、開催した東北文化学園大学の事務の皆様と情報交換会の準備をして下さった(株)アピスの庄司さんに、まず御礼を申し上げます。続いて同僚ですが、ほぼ一年に亘り講演を最優先課題として下さった二木文明さん、資格に

関する海外情勢に関してギリギリまで情報を収集して下さった佐藤俊彦さん、機器に関して細かな配慮をして下さった江間由紀夫さん、補助学生の統括を含め、氏家が一方的に決めてしまうあらゆる困難な事項を、嫌な顔をして氏家に文句を言いながら、結局は当初よりも望ましい形に仕上げる畏友・森谷就慶さんにも御礼を申し上げます。大会そのものには参加されませんでした、開催に関して常に伴走者であった、国立病院機構仙台医療センター精神科部長・岡崎伸郎さん、東北大学生協の門間正孝さんにも篤く御礼を申し上げます。

臨床心理学会の大会は、優れた事例研究や画期的な研究発表はないが、研究者にとっても現場の実践者にとっても、そして何より、ユーザーや当事者、そしてその家族にとっても、対話を通して日々の振り返りができ、仲間がいることが再確認できる場であると再定義してもよいのかなと考えます。

今回の仙台大会においては、参加された方のどれくらいが上記のように考えるかわかりませんが、大会準備で激やせするかと思いつつ、痩せることがなかった私の、楽しく寛いでしまった開催責任者の本音でもあります。

大会も終わりましたので、私は宮城県内、国内、海外と旅に出ます。次の大会で、参加できる人たちは顔を合わせ、参加がかなわない人たちは、臨床心理学研究の誌面を通して対話し、お互いの日々の出来事を伝えあいましょう。感謝。

第 45 回大会定期総会報告

日本臨床心理学会事務局

1. 議長、書記選出

運営委員会推薦で、議長：森谷就慶・書記：野々口知子が決定した。

2. 第 18 期運営委員会活動報告

臨床心理学研究（以下臨心研）第 47 巻第 2 号 24 頁～36 頁掲載の「第 18 期運営委員会活動報告（案）」が運営委員長佐藤より報告された。質疑応答はなかった。

3. 2008 年度会計報告

臨心研第 47 巻第 2 号 37 頁～42 頁掲載の「2008 年度決算案・2009 年度予算案・第 44 回日本臨床心理学会徳島大会収支決算書」が事務局長高橋より報告された。最初に 39 頁に掲載されている 2008 年度決算案の数値が間違っていることが報告された（当日、訂正プリントを配布。本 CP 紙に訂正箇所掲載）。その後、会計報告がなされ、会計監査渡辺より監査報告がなされた。質疑応答はなかった。

4. 第 18 期運営委員会活動報告案、2008 年度会計報告案の承認

最後に、第 18 期運営委員会活動報告案、2008 年度会計報告案の承認がなされた。

※総会に参加されなかった会員で、「第 18 期運営委員会活動報告案、2008 年度会計報告案」その他以下に記される本総会における全ての決定事項に異議がある方は、2010 年 2 月 18 日までに文書で異議内容を学会事務局に提出してください。

臨床心理学研究第 47 巻第 2 号 39 頁 訂正版

2008 年度決算

自 2008 年 4 月 1 日 至 2009 年 3 月 31 日

収 入			
摘 要	予 算	決 算	備 考
繰り越し	996,117	996,117	
2008 年度会費	2,488,000	1,240,000	
過年度会費	440,000	144,000	
2008 年度購読会費	1,104,000	983,495	訂正
過年度購読会費	72,000	56,000	訂正
44 回大会収入	0	376,000	
研修委員会収入	0	0	
地方委員会収入	20,000	5,000	
雑誌売上	100,000	47,688	訂正
利息	1,500	1,424	
広告料	10,000	0	
雑収入	10,000	10,000	訂正
合計	5,241,617	3,859,724	

日本臨床心理学会第 19 期運営委員選出

日本臨床心理学会・選挙管理委員会

第 45 回日本臨床心理学会大会定期総会に引き続き、第 19 期運営委員選出が行われた。臨床心理学研究第 47 巻第 2 号 43-46 ページ掲載の第 19 期運営委員立候補者 17 名に追加立候補者の野々口知子（下記所信表明追加参照）を加え、以下 18 人の第 19 期運営委員が承認された。

第 19 期日本臨床心理学会運営委員

氏家靖浩、太田裕一、亀口公一、栗原毅、小濱義久、酒木保、佐藤和喜雄、實川幹朗、菅野聖子、鈴木宗夫、高島真澄、高橋晶子、谷奥克巳、手林佳正、野々口知子、藤本豊、宮脇稔、渡辺三知雄

第 19 期日本臨床心理学会運営委員立候補所信表明追加

野々口知子（やないクリニック）

人がその人らしく生きていくことの支援をする「専門家」である心理職のあり方を、共に考えたいと思います。産業分野では、不健康な組織に生きていくため「適応」していくことを支援するのが心理職の役割とされ、様々な専門療法がなされています。医療分野では、復職支援リワークプログラムが流行っています。それらの営みの中に、本当にその人がその人らしく生きていける支援があるのか、疑問です。また、心理の国家資格化が何をもたらすのか、注意深く共に検討したいです。psw 資格は資格者の増産で、雇用の不安定さや低賃金、仕事をしていく「プロ」意識の低下が起こったように思います。心理職が国家資格化されたら、その心理職の人は、その人らしく生きていけるのでしょうか？ そういう援助者に援助される側は、どんな思いを持つのでしょうか？ 難しい課題ばかりですが、ご一緒に考えさせてください。

第45回日本臨床心理学会総会討論報告

日本臨床心理学会心理師国家資格検討小委員会

当日は、第18期運営委員会で検討した後、心理師国家資格検討小委員会で原案を作成した「心理職の国家資格化に関する学会見解（案）」について報告がなされた。会場からの質疑応答と審議を経て、以下の学会見解が承認された。なお会の詳細は、臨床心理学研究第47巻第3号に掲載する予定となっている。

2009年11月7日
日本臨床心理学会決議

心理職の国家資格化に関する学会見解

日本における「心理技術者の資格認定」は、1963年、当時の三心理学会（日本心理学会、日本教育心理学会、日本応用心理学会）の呼びかけに応じた心理技術者資格認定機関設立準備会に始まる。当時の心理学関連諸団体は、心理学的業務が社会的な評価を得るために業界団体による民間認定をめざしていた。

日本臨床心理学会（以下、本学会という）はその翌年の1964年に設立された。本学会は1969年、心理技術者資格認定委員会（7学会、6団体）による「第1回臨床心理士公募」に対してその資格認定の根拠が曖昧で恣意的なものであるとして、異議申し立てをした。

本学会は、「資格はだれのためにあるのか」を問う中で「資格が、する側一される側の分断の道具」にならないようにと警鐘を鳴らし、また、「治療される側の人権」に寄り添う専門性のあり方を真摯に議論し、今日まで「真の臨床心理学」を追究してきた。

しかし、近年、医療現場において心理技術者の国家資格無資格問題が顕在化し、心理学的業務の国家資格化の必要性が再燃した。本学会は、1970年代の学会改革以来、「専門性とは何か」、「真の臨床とは何か」を探求してきたが、「専門職」に資格は必要ないと言っているわけではない。

1991年以後は、心理職国家資格化の是非をめぐって徹底的に論議し、当時厚生省の臨床心理技術者業務資格制度検討会（心理職委員として本学会運営委員参加）に関わり、心理職の国家資格化を容認する方針を採った。

2005年には、議員立法をめざして先に作成された医療心理師法案（医療心理師国家資格制度推進協議会）と後発の臨床心理士法案（臨床心理職国家資格推進連絡協議会）とが、互いに譲らず政治的妥協案の2資格1法案が生まれた。2008年には日本学術会議の心理学・教育学委員会が「職能心理士」を提言している。現在、心理学諸学会、関連団体では2資格1法案の実現は困難であるとの見方が主流となり、新たな方向を模索している。

このような時代状況の中で、本学会は、その歴史的主体的立場を再確認し、改めて心理職の国家資格化に関する見解を以下の3点によって明らかにするものである。

- ① 心理職は、心理学的支援に内在する心的侵襲性に対して深い自覚と自制心を持ち、その職業倫理観を養成する教育・研修課程を履修しなければならない。
- ② 心理学的支援とは、「心理学に関する専門知識及び技術」と「その心的侵襲性に対する自覚」をもって「心理学的な支援を求める人（相談する人）」に対して「参与観察、心理査定、心理相談、援助（助言・指導・調整）」を行うものとする。
- ③ 心理職の国家資格は、「心理学的支援を求められる心理職（相談される人）」の職域での地位の安定と発言力の強化を通じ、「クライアント（相談する人）」の福利を促進することを目的とし、「心理職（相談される人）」の資質をクライアントが評価するためのものであり、名称独占とする。

（以上）

第45回仙台大会感想

仙台大会に参加して

眞島 恵（医療法人 正和会 日野病院）

約2年間、事務局のお手伝いをさせていただき、東京大会、徳島大会、そして仙台大会と今回が3度目の参加となりました。これまでは事務局員としての仕事があったため、大会に参加しつつも、残念ながらなかなか発表を見ることができず、一心不乱にお金の計算をしていたものです。しかしこの春事務局を辞め、仕事ではなく、一会員として初めて参加した仙台大会。今更お恥ずかしいのですが、臨心の皆さんが日頃どんな実践、研究をしているのか、ようやく直に触れられた気がします。

7日午前の個別発表から8日午後の「作者の病跡に見るマゾヒズム、マゾヒズム的心性」まで、どれも興味深く参加させていただきました。また国家資格化や医療観察保護法に対するの熱っぽい議論を聞き、熱にあてられた気がします。皆さんの湧き上がるエネルギーはどこからでくるのでしょうか。

8日の「医療観察保護法の現状と課題」では、かかわらなければ見えてこない医観法の実態、改めて挙げられた問題点は大変新鮮で、問題意識を触発されました。様々な問題点はあれども、個人的には医観法の手法については、社会に内在している触法障害者の方たちへの支援に生かせる点があると考えています。先日、精神保健福祉士協会の「触法精神障害者支援に関する研修会」に参加し興味と関心を煽られてきたため、今後テーマが合えば臨心でも心理の立場から触法障害者の支援について取り上げてもらえたらと、淡く期待をしています。

正直に言いますと、退職に際しておかけのご迷惑を思うと、大会参加に対し気後れしたところがありました。しかしぜひ参加してみると、発表されていた蕪沢さんの言葉をかりれば、臨心には場の力、人を受け入れてくれるような器があるのではと感じます。皆さんが一生懸命作られてきたこの大会が、より多くの方が参加し盛況な会になることを心より祈っております。

仙台は牛タンもずんだも大変美味でした。来年もまたおいしい物を食べに、臨心の皆さんとお会いしに、大会へ行こうと思っています。

第45回日本臨床心理学会大会（仙台大会）に参加して

檜山 郁（社福 光風会）

茨城県水戸市から、特急列車に乗って3時間。仙台市には何度か訪れたことはありましたが、第45回日本臨床心理学会大会（仙台大会）に参加するのは初めてでした。

少し肌寒い季節でしたが、会期中の白熱した議論、やりとりに、寒さを忘れるくらい聞き入っていました。

率直な感想ですが、「人と向き合う」ことに根拠ある視点と視点の必要性を議論し、探求していくことが重要であると感じました。

大会2日目午後のワークショップ「ヒアリング・ヴォイシズ」では、対比する2つの視点が提示されました。

「声が聞こえる＝症状」だから薬物で対応とする従来の精神医療の視点、「声が聞こえる＝その人自身の体験」として向き合い、どう対処していくかというヒアリング・ヴォイシズの視点。「声が聞こえる」人とどう向き合うかという視点に大きな違いがあります。「声が聞こえる」体験を否定するのではなく、人生の中で起きる様々な体験の一つとして支援者は受け止め、向き合うことで、体験者に「声が聞こえる＝否定せず、向き合い、対処するもの」として受け止めていく支援

になるのだと理解しました。

ICF(国際生活機能分類)では、支援者も環境因子として位置づけられています。支援者の視点、受け止め方によって、体験者が「声が聞こえる」体験を否定しなくてはいけないのか、どう向き合っていくか対処を見つけていくのか、といった大きな違いを生み出してしまいます。

「人と向き合う」ための視点の重要性とともに、「私」が「何を根拠」として「誰」に「どういった」「支援」をしているのかを点検していく必要性を感じました。そのためには、言葉や文章といった形にする作業が必要なんだということを、『地域臨床心理学』の一読者として痛感しています。

第45回 日本臨床心理学会大会感想文

安達 恵 (川崎メンタルクリニック)

今回初めて日本臨床心理学会大会に参加させていただきました。精神科デイケアに勤務しているのですが、デイケアに活かせるようなヒントをたくさんいただきました。

個別発表は前半に菅野聖子氏の「教育センターにおける学校と心理職の連携に焦点をあてた支援の点検」、後半は菫沢明氏の「相談という営みを考える」に参加しました。前半の発表が内容の濃いものでもう少し詳細を聞きたいと思うなか、予定時間となり終了となりました。菫沢氏はすぐに後半の発表内容には移らず、前半にでた質問や内容を受ける形で後半の発表を進行していました。菫沢氏は相談の際に相手に合わせて枠組みを変えると話しており、それがこの発表の場でも行われていると感じました。その場の状況や雰囲気を見て臨機応変に対応している様子は、デイケアのグループワークに通じるものを感じました。私自身そうありたいと思いつつも、決められていることを優先させてしまい、場の雰囲気をうまく活かさないことがあるのですが、その場で起きていることを丁寧に汲み取りながら柔軟に対応することで場が豊かになることを学ぶことができました。

ワークショップ「ヒアリング・ヴォイシズ」では、「きこえる」人と「きこえる人に対応する」人と「声」役に分かれてのロールプレイが行われました。「話すな」という「声」と「話してみませんか」という職員役の声かけに板ばさみとなり、職員に話そうとしたことを諦めてしまう当事者役の困惑が、ロールプレイでありながら見ている側にもリアルに感じられました。デイケア場面でも利用者の似たような反応があったことが思い出されました。幻聴が辛いと相談を受けることはあったのですが、相談しているその場で「声」がきこえていてそれにより行動が左右されているかもしれない可能性を意外と見落としていたかもしれないと振り返ることができました。今回は初めて「ヒアリング・ヴォイシズ」について知ることができたので、今後は「声」の対処や自助グループについてなど学んでいけたらと思います。

新しい発見に出会える場、日々の臨床を振り返る機会として、また大会に参加できたらと思います。ありがとうございました。

ヒアリング・ヴォイシズ (HV) 国際会議での受賞

日本臨床心理学会運営委員会

2009年9月14日～18日にオランダで開催された「INTERVOICE ミーティング+第1回HV世界会議」にて本学会前運営委員長の佐藤和喜雄さんが、長年の日本におけるHV活動を認められ、みごと「今年の功労賞」を受賞されました。ここにご報告するとともに、今後益々のHV活動の発展を期待いたします。

第19期日本臨床心理学会運営委員体制

日本臨床心理学会事務局

2009年12月6日開催の第19期第1回日本臨床心理学会運営委員会にて、新運営委員体制が決定し、第19期活動が開始されましたので、ここにご報告いたします（カッコ内氏名は学会員）。

1. 運営委員長 : 藤本 豊
副運営委員長 : 亀口 公一
事務局長 : 高橋 晶子
事務局 : 小濱 義久・栗原 毅〔会計補佐〕、太田 裕一〔HP担当〕、
鈴木 宗夫〔CP紙作成・情宣担当〕、
事務局員 : 宇田川 恵美子〔アルバイト〕
2. 編集委員長 : 栗原 毅
編集委員 : 太田 裕一、亀口 公一、酒木 保、實川 幹朗、高島 真澄、
渡辺 三知雄、(久能 代嗣〔編集事務担当〕)
3. 研修委員長 : 菅野 聖子
研修委員 : 氏家 靖浩、手林 佳正、野々口 知子、宮脇 稔
4. 日本心理学諸学会連合
: 藤本 豊
5. 精神保健従事者団体懇談会
: 鈴木 宗夫、藤本 豊
6. 日本学術会議 : 氏家 靖浩
7. 心理師国家資格検討小委員会委員長
: 亀口 公一
心理師国家資格検討小委員会委員
: 栗原 毅、佐藤 和喜雄、實川 幹朗、高島 真澄、
高橋 晶子、手林 佳正、宮脇 稔
8. HV小委員会委員長 : 佐藤 和喜雄
HV小委員会委員 : 高島 真澄、藤本 豊、(松王 強、吉田 昭久)
9. 地方委員会
関東委員会委員長 : 栗原 毅
関西委員会委員長 : 谷奥 克巳
東北委員会委員長 : 氏家 靖浩
10. 監 事 : 小谷野 博、渡辺 由美子

これから2年間、どうぞよろしく願いいたします。

日本心理学諸学会連合への意見表明

日本臨床心理学会心理師国家資格検討委員会

2009年11月12日付で、日本心理学諸学会連合より「国資格をめぐる日本心理学諸学会連合の方針（案）」に対する学会の意見が求められましたので、以下の内容の意見表明をし、「心理職の国家資格化に関する学会見解」を提出いたしました。

1. 資格の基本コンセプト

- ・資格の名称：心理師とする。
- ・受験資格者：学部卒で2年以上の実務経験を有する者、もしくは学部卒+大学院（修士）修了者とする。

2. 要望意見

以下の字句の修正を、要望意見とする。

4. 業務の内容

- ① 「心理的な問題を有する者とその関係者」に対する心理アセスメント（以下略）の「心理的な問題を有する者とその関係者」の部分で「心理学的な支援を必要とする者」（下線部分）と修正する。

3. カリキュラム

「今後、日心連の資格委員会・教育委員会・常任理事会および三団体会談で、一本化されたカリキュラムの作成に向けて作業を進めること」は承認する。

なお、カリキュラム内容に関して、「資格の業務の対象当事者（患者、クライアント等）から学ぶ講座を必修とすること」を提案する。

編集委員会からのお知らせ

日本臨床心理学会編集委員会

● 『臨心研』誌投稿専用アドレスが開設されました。

この度、学会誌『臨床心理学研究』に投稿される会員のための専用アドレスを開設しました。それに伴い投稿規定の改定が必要となり、只今鋭意検討作業を進めておりますが、メールをご活用の方々の利便性を考え、先にアドレスだけお知らせ致しますのでご利用下さい。

〔投稿専用アドレス〕 nichirinshin_henshu@yahoo.co.jp

● 落丁のお知らせとお詫び

本年10月に発刊されました『臨床心理学研究』第47巻第2号で、落丁（ページの脱落）があり、お知らせ戴いた会員の方にはすぐに落丁のないものをお送り致しました。この場をお借りしてお詫び致します。委託先印刷会社の説明では、印刷機による帳合（印刷されたページを集めて束ねる工程）の不調によるもので、大量に発生する事故ではないと思われるとのことですが、お手元の当該号で落丁あるいは乱丁（ページの順序の乱れ）がありましたら、本学会事務局までご連絡下さい。すぐに新しいものをお送り致します（送料本学会負担による返送用封筒を同封しますので欠損誌をご返送下さい）。連絡先は学会誌最終頁に記載がありますが、

念のため下に記します。

- * 郵便でのご連絡：〒110-0003 東京都台東区根岸 1-1-24 鶯谷日伸ハイツ 201
- * 電話・FAX でのご連絡：03-3847-9164 (IP 電話：050-1092-1615)
- * メールでのご連絡：nichirinshin@yahoo.co.jp

なお今後、学会誌の落丁・乱丁につきましては同様の対応をとらせて戴きますので、ご了承下さいますようお願い致します。

「地域臨床心理学」出版について

日本臨床心理学会運営委員会

この度、11月21日に日本臨床心理学会編「地域臨床心理学」が中央法規出版から出版されました。それに伴い先日、学会員に限って期間限定で、割引料金での販売のご案内をお送りさせていただきました。是非この機会に、ご購入をよろしく願いいたします。

また、本を読んだ感想なども、是非学会事務局までお送りいただければ幸いです。

会費納入のお願い

日本臨床心理学会事務局

今回、会費未納の方には振込用紙を同封させていただきました。会費は2年間支払われないと自然退会扱いとなってしまいます。振込用紙が同封されている方は、是非、年度内に当該会費をお振り込み下さい。なお、銀行でのお振込をご希望の方は、以下の口座にお振り込み下さい。

郵便局：00190-8-59797
みずほ銀行：稲荷町支店 普通 1784345

HPリニューアルのお知らせ

日本臨床心理学会事務局 (HP 担当)

この度、学会 HP をリニューアルしました。ウェブ使用が可能な方は、是非 HP をご覧ください。
ホームページ URL <http://www.geocities.jp/nichirinshin>

第46回日本臨床心理学会大会のお知らせ

日時：2010年9月25日(土)～26日(日)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

※大会の内容に関するご意見・ご要望などありましたら、学会事務局まで郵便・ファックス・メールなどでお寄せ下さい。